

案件概要書

2014 年 2 月 25 日

国際協力機構東南アジア・大洋州部東南アジア第四課

1. 案件名（国名）

国名： カンボジア王国

案件名： プノンペン都交通管制システム導入計画

(The Project for Development of Traffic Management System in Phnom Penh)

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における運輸交通セクター/プノンペンの開発実績（現状）と課題

カンボジア王国（以下「カンボジア」という）カンボジア王国の首都プノンペン（以下「プノンペン都」という）は、人口 168.8 万人（2013 年）を有するカンボジアの政治経済の中心地である。近年の急速な経済成長と都市人口の増加により、車両保有者が急増し、交通渋滞が深刻化しつつある。これまでプノンペン都は、主に独自予算にて信号機の整備と交差点改良、立体交差の建設（2 箇所）、細街路の拡幅等の交通改善施策に取り組んでいるが、今後も引き続き車両保有台数の増大が見込まれ、交通事故発生リスクも増すことが予想されるため、抜本的な交通改善施策の検討、実施が必要である。

現在、プノンペン都には信号機付き交差点が 64 か所あるが、信号機器、制御システムが統一されておらず、その多くが交差点ごとに独立したパターンとなっているため、特に朝夕の交通混雑に対応できていない。

(2) 当該国における運輸交通セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

本事業は、カンボジア政府の第 3 次四辺形戦略(2013-2018)における戦略の柱の 1 つ「インフラ整備」を通じた経済成長および貧困削減に位置づけられる交通インフラ整備に該当する。また、プノンペン都において現在策定中の都市交通マスタープラン（以下、M/P）において、2016 年までの短期計画の最優先プロジェクトの一つに位置付けられている。

(3) 運輸交通セクターに対する我が国の援助方針

本事業は、対カンボジア国別援助方針の重点分野である「経済基盤の強化」における「経済インフラの整備」に該当し、我が国及び JICA の援助方針と一致している。また、JICA は、2012 年から「プノンペン都総合交通計画プロジェクト」を開始し、M/P の策定を進めている。これにより、都市道路網の拡張整備、公共交通導入、信号機・交通管制システム等の交通管理等を含む総合交通計画が 2014 年に完成する予定である。

(4) 他の援助機関の対応

これまで、プノンペン都内道路の整備について中国の支援等があったが、信号機の設置は自国予算で対応しているため他の援助機関の支援との重複はない。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、交通渋滞が深刻化しているプノンペン都において、都内交差点の信号システムを高度化・増設し、交通管制システムを導入することにより、交通状況の改善を図り、もってプノンペンの経済活動の活性化に寄与することを目的とする。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名：プノンペン都

(3) 事業概要

1) 土木工事、施設、機材

信号機（100 交差点）及び信号機の統合制御システム、交通量観測センサー、交通管制システムの調達・据付、交差点形状、右折左折レーン表示、中央分離帯、バス優先レーン等の改良工事等

2) コンサルティングサービス（詳細設計、施工監理、安全教育・維持管理指導）

(4) 事業実施体制

実施機関：プノンペン都及び公共事業運輸局

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類： B

② カテゴリ分類の根拠： 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等： 協力準備調査にて確認

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携： プノンペン都が 2014 年を目標に導入予定の民間事業者による公共バスの路線計画をふまえ、路車協調システム、バス優先レーン等の導入を検討する。

(7) その他特記事項： 特になし。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

ウガンダ国「カンパラ市内交通事情改善計画」の評価等では、交通法規遵守については交通警察等の関係組織との連携強化を図ること、導入機器の維持管理については担当者の離職が維持管理の中断につながらないように、技術指導を複数のカウンターパートに対して行う、マニュアルを複数部提供する等の対応が必要であるとの教訓を得ている。

(2) 本事業への教訓

機材の据付、交通管制システムの試行・調整段階から本導入までの期間を活用したソフトコンポーネントを計画し、カウンターパート複数名を対象にして組織に技術を定着させる。また、職員が異動した場合においても、研修等により得られた技術が後任者に引き継がれることを確認する。

以上

〔別添資料〕地図

プノンペン都交通管制システム導入計画 地図

